

茶畑 S R t i m e s

76 回生にとって、2 年生に進級して初めての発表会である中間発表会が、7 月 12 日(火)の 6・7 時間目に行われた。各班がこれまでの研究の成果と今後の方針を発表し、それについての活発な質疑応答が見られた。14ゼミごとの発表会の様子をまとめた。

物理ゼミ

質問に対して誠実に返答を行う班が多かった。質問は後半から盛んに出始め、非常に活発な議論が行えたと考えられる。ポケットラボなどの各種機器を実験に用いている班が多かったが、その機械に関する質問がいくつか出た。改めて、その機械がどういうもので、何をどのように測るのかという点を確認し、結果を適切に解釈できるように、これからより一層努力したい。また、今まで以上に流れを大切に、今後取り込んでいきたい。

化学ゼミ

多くの班が発表時間を守り、質問に対して誠実に答えていた。1 つも質問されない班があったことが気がかりであった。

生物ゼミ

質疑応答の際、生徒からも積極的な質問があり、活発な議論だった。発表会中も質疑応答に向けて班の中で話し合っている様子が見られた。今後は、研究方法の面で、人に頼ることも身につけていき、最初の目的からずれないように、最後の結論に向かっていきたい。

地学ゼミ

パワーポイントを用いての発表となったため、各自が原稿を暗記しており、事前に入念な準備をしていた様子だった。質疑応答では専門用語の意味から、研究方法や考察まで幅広い質問が飛び交った。今回の中間発表で今後の研究の方針が分かり、次回の発表会に向けても課題の見つかる有意義な発表となった。

数学ゼミ

質疑応答の際、計算方法や定義についてなど、数学ゼミに特徴的な質問が多く、聴衆、発表者共に考えさせられた。しかし、発表準備が充実していた班と不足していた班の差が目立ち、学術的な意識の低さが見られた班もあった。

情報ゼミ

聴衆が、各班発表内容が適切かどうか見極めようとしていた。外部の先生から研究が社会にどう役立つのかを明確にするべき、対象を具体的に記すべきというアドバイスをいただいた。情報ゼミは 3 つのゼミ合同で行っているため、これから他のゼミとの繋がりも大切にしたい。

国語ゼミ

全体的に雰囲気良く、質問が多く出され、応答も概ね的確だった。また、発表に慣れて言い回しが滑らかになった発表者が多い印象だった。しかし質疑応答の際の声掛けや礼の有無など、発表前後の行動が発表会として相応しくなかった。

地歴ゼミ

発表がスムーズに進行し、質問も短い時間の中でそれぞれの班に複数出た。また、活発な意見交換が行われていた。各班個性豊かな研究を行っており、非常に興味深かった。



音楽ゼミ

どの班もしっかり準備をして発表に臨んでいた。聴衆も熱心に発表を聞いていたものの、質問が少なかった。もう少し質問を出せると、より活発な発表会になると思った。

英語ゼミ

一人一人が真剣にほかの班の発表を聞いている様子が伺えた。質問も多く、自ら研究を理解しようとしている姿勢が見られ、全体的にはいい雰囲気での発表が進められた。

公民ゼミ

聴衆は発表者のほうを向き、静かに発表を聞いていた。実験の内容だけでなく、話を深く聞くことのできる質問が飛び交っていた。

家庭ゼミ

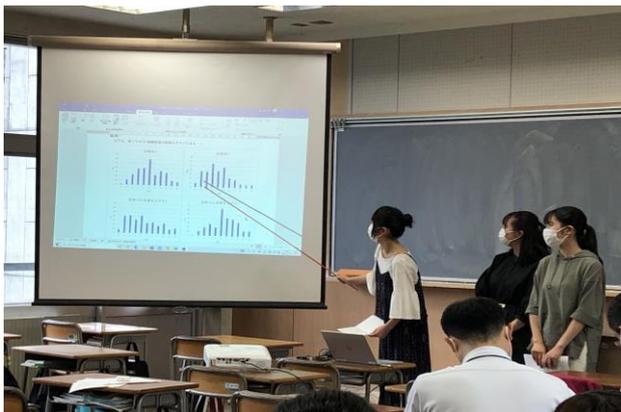
どの班も聴衆が聞き取りやすい声の大きさを発表していたので内容が理解しやすかった。外部の先生のアドバイスも活用して、今後の研究を進めていきたい。

保体ゼミ

たくさんの質問が飛び交っていた。実験における不備や用具の補足など、班ごとには異なるが様々な課題が見つかった。実験の不備の課題については、具体的な解決方法まで考えることができた。

災害研究ゼミ

活発的に質問していて、どの質問も今後の研究に活かそうなものばかりだった。前回の発表よりも自分の研究を理解している人が多かったため、原稿を「暗記」するのではなく、研究を「説明」できていた。



編集後記

ゼミによって発表の精度や満足度は異なるものの、2月の発表に比べ、どのゼミも成長していることが分かった。班ごとに出てきた課題にしっかりと向き合い、より良い発表を目指したい。

今後の予定としては、

10月5日【水】ゼミごとのポスター発表会

10月25日【火】全体に向けたポスター発表会（体育館で行う）

12月20日【火】ゼミごとの口頭発表会

となっているので、それぞれの班で計画的に研究を進めていく必要がある。